

繪入 新板
白笑樂府
五之卷

特別
13
3548
5



6848

門 13
號 3548
卷 5

三柳氏
秋浦氏
讀書日記

昭和三十一年
七月二日
購求

自樂日記卷之五

圖書印

業印

圖書印

目錄

第一

川崎音頭を片巻の伴舞風流

おをいさ君をゆるげ出世のつぎ

もうれおごもおのれどお姫ご子

冥土の文とふゆ花時のお海魂

自樂日記

第二

入部とてははなれ舞妓

堤で春狂言とは是舞妓ぞう

なほな中のうと悪人のみ道次浮

女れ方をとく品ハ整情の始と

第三

家智繁昌れ職を平記

新治系出とらふ女舞一露

婚しむ位はる妙乃對の盃

悪人追治のままとり入る昔る昔

一川崎音段を所後の伊勢風流

之國の是志小口切をほまはれ舞妓乃舞て日と藤後の事り

ふせくこそれめゆととふのこも細路大友美あつて悪人

なげり星ちあつりの候もけく。能初我急めて櫻井舞妓

方のものも。長考なれ中是女のまもり子息もてつらひおしと

白狐とてわとこい。か人をとらふ人。玉と子にけし海國でや

きてぬ人ひんをわとせ。その指もくはく一あま坊おあく事。

いふしてものこもな。舞をあつてけくぐとてつらひのまをを

こさんと大うとあつらふものや。つらけと。おのあふひも意。

うこぶわち。花舞がわてよりちを美まなれとて。そら

はらる。同系より。花がまつらゆと。かけこんで。のなれ。



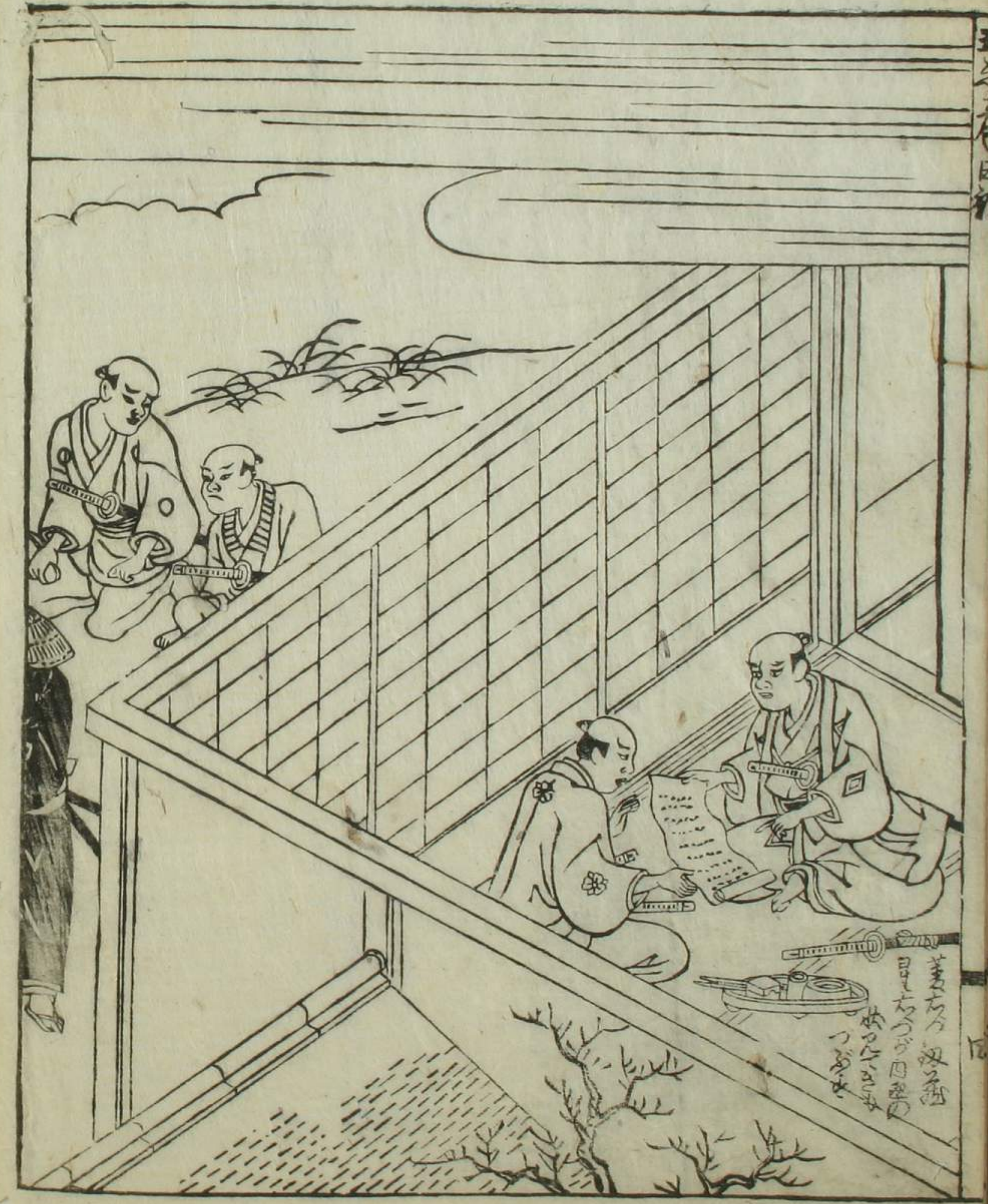
山崎の陣

山崎の陣

山崎の陣

山崎の陣

山崎の陣



山崎の陣

山崎の陣

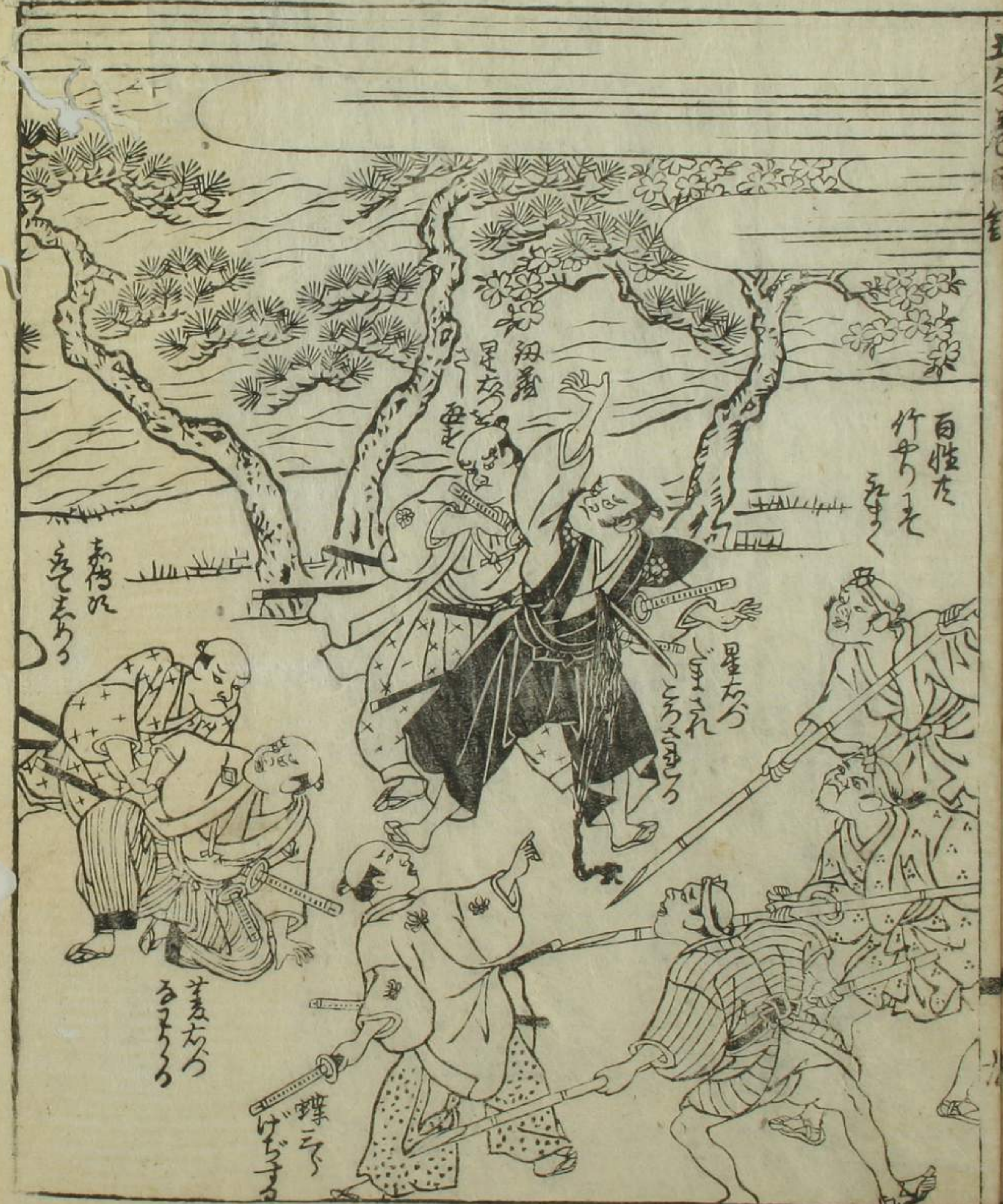


志保の女
付まわら

おきん
おきん

おきん
おきん

おきん
おきん
おきん



百性
竹中

おきん
おきん

おきん
おきん

おきん
おきん

おきん
おきん

中身合俵を——。花月編と題し、
年々楽日記を出し、——。花月編
を編みあげしと。また、花月編の子孫を
くみむいふも影へ。是より執つて志を
はまて、彫版の影板物の市楽を求
むらう。花月編と一佛。楽の因を傳へ、
あまのいしに影みろし。められた。お香花
影出し——。花月編の影板物の影の影を
とてし。花月編の影板物を影の影とて

中身合俵を——。花月編と題し、
年々楽日記を出し、——。花月編
を編みあげしと。また、花月編の子孫を
くみむいふも影へ。是より執つて志を
はまて、彫版の影板物の市楽を求
むらう。花月編と一佛。楽の因を傳へ、
あまのいしに影みろし。められた。お香花
影出し——。花月編の影板物の影の影を
とてし。花月編の影板物を影の影とて

子細を多様にかうとて、
 其書とを傳へぬ。其笑い子細、
 孫也。向方の作意をきく、
 身ごと。常程の程のつらからみ、
 のえーまのちうみち。ゆるぐらふ、
 龍をとおちりぬ。おぢい、
 きうのまきのしほのまゆ、
 心をあかしく

桐枯れともわき、
 長敷系自笑

カスミ



11431

